



## 包装のない店「ローラ」

ごみ削減のため、ハノーファーにあるお店ローラ (Lola) は包装材を使わない形で商品を販売しています。りんごや人参など生鮮野菜や果物をばら売りし、小麦粉や米などの穀物や、ナッツ、ミューズリー、お菓子は量り売りで、必要な分を持参した容器に入れます。チーズは店員が切り分けてくれます。料理油や酢をはじめ、洗剤や石鹸、歯ブラシ、ちり紙もあり、生活に必要なものはすべて揃います。

コーヒー豆や穀物、菓子など多くのものは、金属の大きな缶で届けられ、空になった缶はメーカーに戻され何度も使います。普通の小売店ではトレットペーパーはビニールパックに入っていますが、ローラでは300個入りの紙箱で仕入れてばら売りしています。包装材は販売時だけでなく、仕入れの段階から削減しています。

店主のアンケ・シュネーフェルさんは店の方針を次のように話しています。

- ① プラスチックを使わない
- ② 地元産を優先
- ③ オーガニック産
- ④ なるべくフェアトレード

扱うのはほとんど地元の野菜や商品ですが、自国で生産できないコーヒーや紅茶は輸入せざるを得ないので、せめてフェアトレードとしています。

アーモンドクリームやマスタードなど店で手作りしたものもあり、濃厚なおいしさ。ワインやヨーグルトはデボジットのかかった瓶に入っており、みな戻しにきます。最近は大豆ヨーグルトや豆乳などベジタリアンやビーガン向けの食品も扱っています。

面白いなと思ったのは、花の種の入った紙吹雪。結婚式や誕生会のときに紙吹雪をまきますが、これなら外にまくと花がはえてきて愉快です。

客層はばら売りが普通だったころを知っている年配者や、気候保護運動をしている若者をはじめ、経済的に余裕のある家族など老若男女さまざま。

当店経営者のミハエル・アルパートさんは大工で、商品を入れる棚を自作しました。起業家でもあり、持参した容器の使用を推進するため、独自のシステムを開発しています。その会社については別の機会にご紹介します。

客は容器を持参するか、店で買います。重量計に容器を置くと、重さを記入したシールが出てきます。それを容



石鹸シャンプーを手にしたシュネーフェル店長

器に貼ると、レジで容器の重さを差し引いて清算されます。客が持って来た空き瓶も置いてあり、これは無料。お客様同士で助けあうとてもよいアイデアです。

カフェのようにコーヒーやアイスクリーム、手作りスープもあり、スープには売れ残った野菜や賞味期限切れ間近のものを活用しています。それでも余ると、残り物を分配するアプリ「too good to go」を通して必要とする人に安く提供しています。

少し割高ですが、それだけの価値があります。ナイジェリアから帆船(エンジンのない船)に乗って来たというコーヒー豆を買いました。どうやって運ばれて来たのだらうと考えるだけで楽しくなります。

Lolaの公式サイト

<https://lola-hannover.de>

ごみかんどイツ特派員 田口 理穂

## AKIRA の 成長記録

16歳の明は1月から6月までフランス南西部のグルノーブルで留学生生活を満喫中。1968年に冬季五輪が開かれた地なので、長野五輪があった故郷の信州との縁を感じます。明はドイツの学校で5年間フランス語を習いましたが、まだまだ授業は難しい。先週は180ページの本を読まねばならず、一応読んだけど全然わからなかったと言います。ドイツ語と英語の授業は楽チンで、体育の授業では背泳ぎを覚えました。

バレンタインデーに、明はラブレターもどきをふたつももらいました。先生が、好意のある子にメッセージを書くよう紙を配ったのです。一枚は日本語、もう一枚は英語とフランス語のミックスで、ともに匿名でした。

1枚目は「これ、日本語だよ」と明が送ってきたので私も見ましたが、ネットで翻訳して一生懸命書き写したよ

うな努力の跡がうかがえる。誰かわからないけど、仲良しグループの女の子が友情の印に書いたらしい。友達に「キス!」「あなたは本当に素敵ですね」と書くかなと疑問ですが、フランスでは十分ありえるそうです。日本語だとどきとします。その子はクラスで唯一英語が堪能なので、明は留学した最初の週末5、6時間英語でチャットし、学校のことをいろいろ教えてもらったそう。飛び級していて、成績は学年トップで「めちゃくちゃ頭いいんだ。ドイツ語のテストもぼくよりよかった」とびっくりです。

もうひとつの手紙も「フランスの学校を楽しんで」と友情いっぱい。数学の授業で電卓を貸してくれたり、昼休みにさりげなく話しかけてくる隣のクラスの子じゃないかと明は推測しています。

私が「じゃあ2枚ともラブレターじゃないね」というと、明は「でもバレンタインデーだから、ちょっとラブレターだと思う。ぼくは誰にも書けなかったけど」とうれしそう。青春いっぱいです。